

防災活動事例集 別冊

女性の視点からの防災対策について



平成31年3月作成

本書は、取組を通して明らかになった「避難所における、女性の視点からの防災上の課題」を紹介することで、地域での防災活動の参考としていただくことを目的としております。

女性の視点からの防災対策について

近年発生した東日本大震災、熊本地震などでは、「避難所における女性の方々への配慮」が課題となりました。

相模原市では、「避難所運営マニュアル（平成29年4月1日改訂暫定版）」等において、女性避難者への配慮について記載しておりますが、【避難所で女性が生活を送る際に、どのようなことが課題となるのか】を把握するため、様々な立場の方からご意見を頂く機会を設けました。

目的

避難所における、女性の視点からの防災上の課題を抽出する

相模原市立男女共同参画推進センター（ソレイユさがみ、指定管理者：NPO法人サーラ）と連携し、次のような手法で課題の抽出を行いました。

防災講座「女性の視点からの防災対策」の実施と
ソレイユさがみの登録団体へのアンケート調査

内容

- ・「避難所運営マニュアル」に定めた避難所でのルール等について、市職員による講義
- ・避難所における災害時の状況をイメージするためのワークショップ（クロスロード）
- ・避難所で生活する上での課題についてのアンケート調査

「女性の視点からの防災対策」をテーマとした意見交換会の実施

内容

- ・【防災講座「女性の視点からの防災対策」】の内容とアンケート結果の報告
- ・ワークショップ形式での意見交換会

取組 1

防災講座「女性の視点からの防災対策」

ソレイユさがみとの共催で、防災講座「女性の視点からの防災対策」を開催いたしました。当日はソレイユさがみの登録団体の方々を対象に、危機管理課の職員による講義のほか、クロスロード、アンケート調査を実施いたしました。

【概要】

日時：平成30年10月15日（月）午前11時～正午
平成30年度第2回登録団体連絡会の閉会後に実施
会場：ソレイユさがみ セミナールーム1

参加者：ソレイユさがみ登録団体 65名（女性42名：男性23名）

内容：

「女性の視点からの防災対策」に関する講演（講師：危機管理課職員）
災害発生時の避難について、避難所の運営について等
ワークショップ
避難所での生活に関するクロスロードを実施
アンケート「女性が避難所で困らないように生活するために」



当日の様子（左：防災講演、右：ワークショップ）

【実施結果】

この講座では、まず防災の講演で相模原市が定めている「避難所運営マニュアル」の内容を紹介し、さらにワークショップを通して、避難所ではどのような状況になるか、参加者に想像していただきました。

参加者には講座を通して、避難所生活における課題はどのようなことか、アンケート調査を行いました。

アンケートの内容と結果は次ページ以降へ

女性が避難所で困らないように生活するために

相模原市では避難所運営マニュアルを作成しており、災害時に開設される避難所はこのマニュアルを基に運営を行うこととなっております。

このマニュアルは、過去の震災の教訓から女性に配慮した内容を定めておりますが、さらに充実したものとするためには、「女性の視点」からのご意見がとても重要であると考えております。

そこで、アンケートにご協力いただき、皆さまのご意見をお聞かせください。

【 をつけて下さい】

性別 (男性 女性) お住まい (緑区 中央区 南区 市外)

Q1：本日の講義で市の取組を聞き、避難所での生活に不安に思うことはありますか？

次の ~ について、あなたが感じるものに最も近いものに をつけて下さい。

トイレの利用に関すること

ア 不安ではない イ それほど不安でない ウ 少し不安だ エ とても不安だ

避難所で配られる物品の利用に関すること

ア 不安ではない イ それほど不安でない ウ 少し不安だ エ とても不安だ

洗濯場、更衣室、お風呂などの共有スペースに関すること

ア 不安ではない イ それほど不安でない ウ 少し不安だ エ とても不安だ

生活スペースでのプライバシーの確保に関すること

ア 不安ではない イ それほど不安でない ウ 少し不安だ エ とても不安だ

防犯に関すること

ア 不安ではない イ それほど不安でない ウ 少し不安だ エ とても不安だ

子どもの避難所生活に関すること

ア 不安ではない イ それほど不安でない ウ 少し不安だ エ とても不安だ

炊飯・清掃の当番など、避難所での自分の役割について

ア 不安ではない イ それほど不安でない ウ 少し不安だ エ とても不安だ

裏面につづく

Q2：不安を解消するために、どのような方法が有効だと思いますか？

上記の ~ の中で、不安だと思ふ項目を2つ選び、「どんなことが不安か」

「自分ではどんな対策ができるか」「自分では対策できないので、市に期待すること」等を記入してください。

番号：____（ ~ から選ぶ）

番号：____（ ~ から選ぶ）

自由記述欄

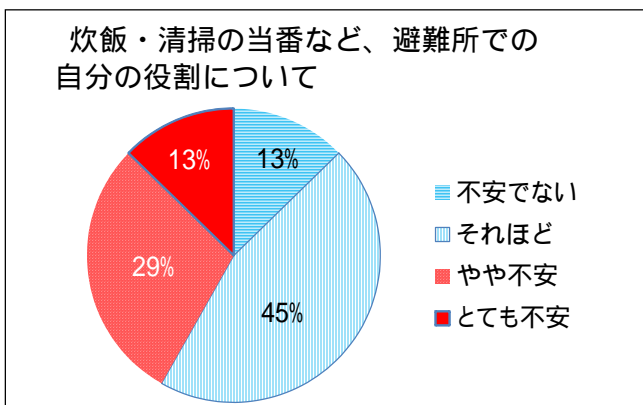
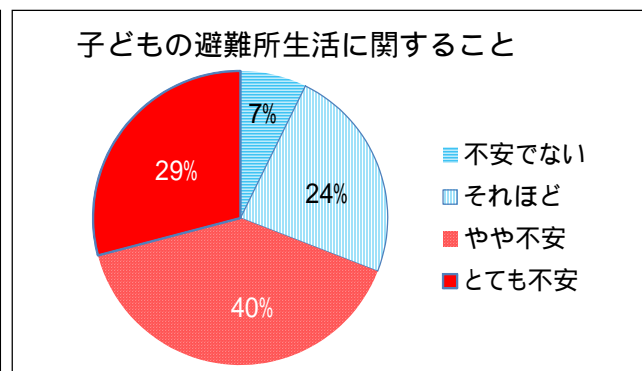
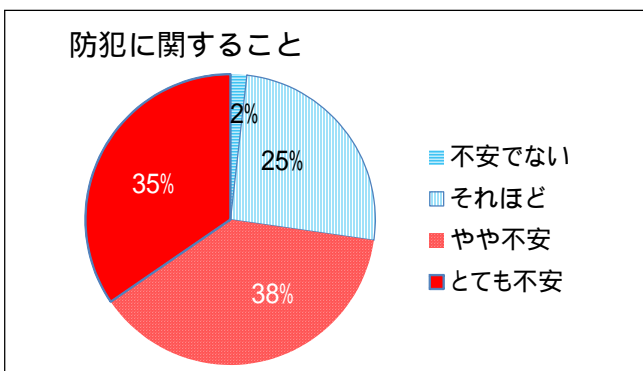
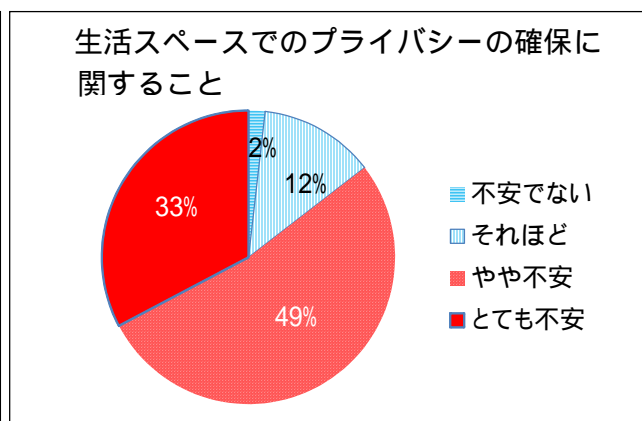
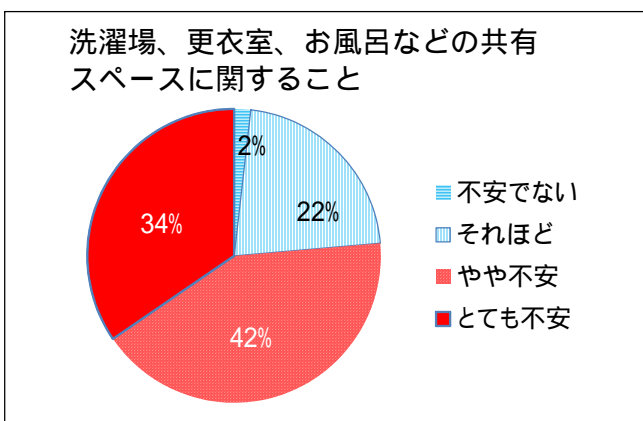
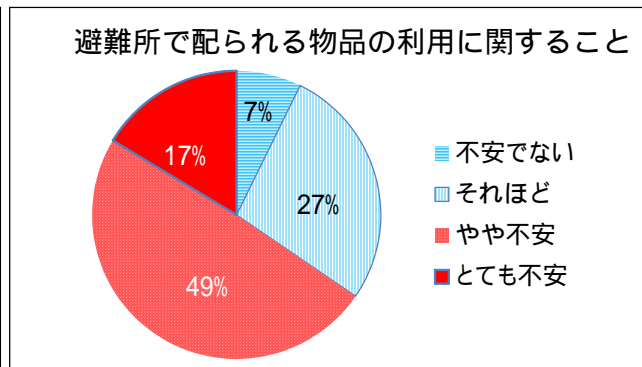
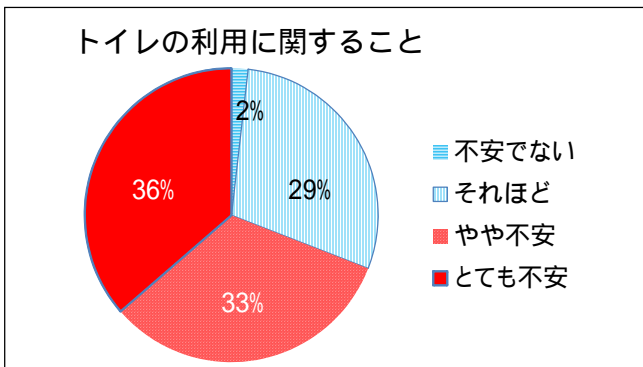
今日の講座を受けて感じた事、疑問などありましたら、自由に記述してください。

女性が避難所で困らないように生活するために アンケート結果

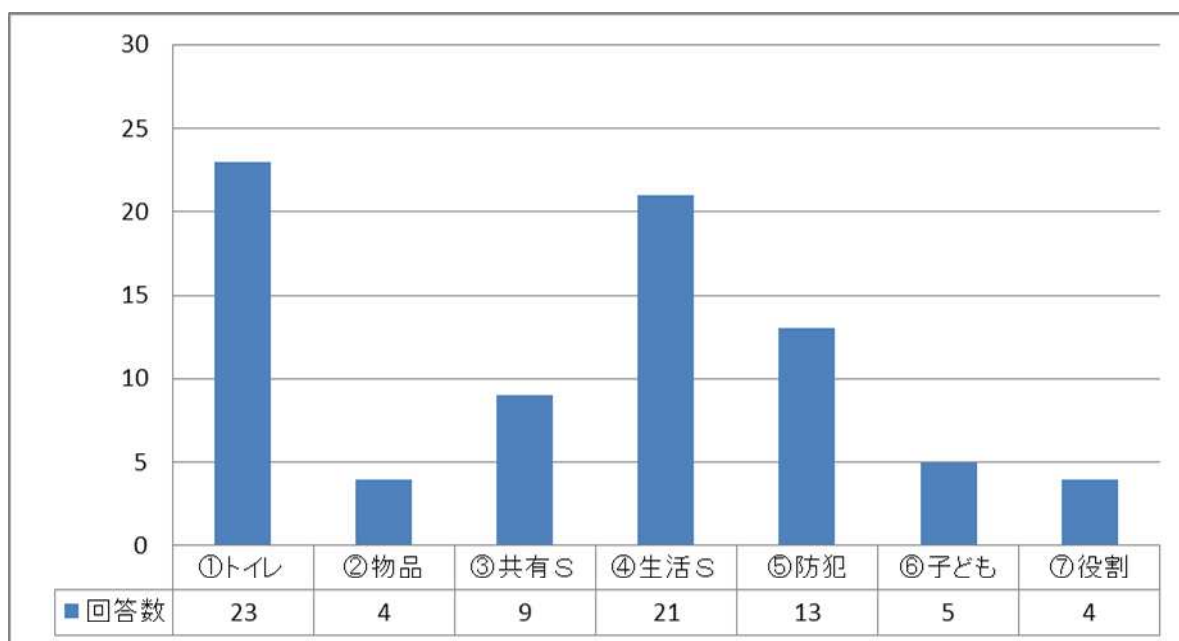
回答数 55名 性別 (男性19名 女性35名 未記入1名)

お住まい(緑区24名 中央区15名 南区10名 市外5名 未記入1名)

Q1: ~ について、あなたが感じるものに最も近いものに を付けてください。



Q 2 : Q 1 の項目のうち不安だと思う項目を 2 つ選んで意見を記入してください。



回答の最大数 : 5 5、回答数の合計 : 1 1 0 (未回答数 : 3 1)

【Q 2 : 記述内容】

回答者の皆様からはたくさんのご意見をいただきました。

ここでは「女性の視点」に関連するものを抜粋し、類似する意見をまとめたうえで掲載させていただきました。

番号 : ____ (トイレの利用に関すること)

- ・仮設トイレの衛生面が不安
- ・ルールを作り、みんながそれを守って使用することが必要
- ・各々が自分の許容よりきれいに使うよう心がけるべき
- ・大勢の人がいるのでモラルが守られるのか、ルールを守るように呼びかけることが必要
- ・助け合いができるか、マナーの悪い人に声が出せるか
- ・病弱で深夜に複数回起きるので不安
- ・女性はトイレの時間も長くなるが、トイレの数は充分なのか、長い列になったら不安
- ・トイレの利用回数が多いので、とても心配
- ・体調を崩した人が利用頻度が多くなるのが不安
- ・防犯もそうだが、治安が悪くなるのではと心配

番号 : ____ (避難所で配られる物品の利用に関すること)

- ・アレルギーや食事制限があるので心配 (好き嫌いしてると思われそう)
- ・配布される側から要望が多いと、配布する側も大変だと思う

番号：__（洗濯場、更衣室、お風呂などの共有スペースに関すること）

- ・大勢の方が利用するので衛生面が不安
- ・誰でも利用できる、特に赤ちゃんや高齢者を優先できるようなルール作りが必要
- ・共有スペースのプライバシーが守られないのではないかと
- ・風呂には入りたい、せめてシャワーなどがあれば気分が和らぐのではないかと
- ・洗濯や風呂に関しては普段どおりにできると思っていない
- ・自分でどうにかできる問題ではないと思う

番号：__（生活スペースでのプライバシーの確保に関すること）

- ・プライバシーがどのように守られるか、ルール作りが不安
- ・小さな子どもや体調不良になりやすい人は、情緒不安定になるのでは
- ・人権に関わることなので、安心・安全でありたい
- ・避難所内に女性限定のスペースを作るとは効果的だが、その一方で、女性たちの居場所を特定し、孤立させてしまうと犯罪などの温床になる危険性があるので、パトロールを行うなどの対策が必要だと思う（防犯に関すること）でも同様の意見あり
- ・自身の避難所生活の経験から、大勢の中では睡眠が大変だと思う

番号：__（防犯に関すること）

- ・被災した場所を狙った盗難対策が必要
- ・避難所での貴重品の保管、自宅に残してきたものの管理について、不安がある
- ・防犯に対する各個人の考え方の違いで、いさかいが起きるのでは
- ・日ごろからモラルの低下が懸念されている中、非日常の中でトラブルなく生活できるか不安
- ・色々な人の出入りがあるので何事にも気をつけなくてはいけないと思う
- ・身体が不自由な方もいるので、特に配慮して欲しい
- ・避難所でどんな犯罪が起こる危険があるのか、対策も含めマニュアル等で紹介して欲しい
- ・警察との連携方法などを明確にして欲しい

番号：__（子どもの避難所生活に関すること）

- ・子どもは一人でトイレに行かせないなど、普段から話し合いを持つことが重要
- ・小さなお子さんや赤ちゃんがいるお母さんは、大変な上、周囲に気も使うことは気の毒なので、そういった世帯は場所を区分けしたほうがよい
- ・子どもはじっとしていることができないので、見守ってくれる人をつけるべき

番号：__（炊飯・清掃の当番など、避難所での自分の役割について）

- ・役割は平等に与えられるのか
- ・動ける人が率先して動き、運営を円滑にするよう努力したい
- ・小学校高学年以上や高齢者も、できる範囲のことはやれるのではないかと

【アンケート結果まとめ】

Q1について、「炊飯・清掃の当番など、避難所での自分の役割について」以外は「やや不安」「とても不安」を選択した方が合わせて約70%もしくはそれ以上となり、全体を通して「避難所生活に不安がある」という回答が見受けられた。

「生活スペースでのプライバシーの確保に関すること」は、Q1で「やや不安」もしくは「とても不安」を選択した方の割合が他の質問より多かった。また、Q2で選択している方も多い。

「トイレの利用に関すること」は、Q1で「不安でない」「それほど不安でない」を選択した方の割合は他の項目と比較して高くないが、Q2で選択している方は最も多い。

Q2では、各項目に共通して「ルールを整備し、それを順守することが必要」という趣旨の回答が多かった。

「防犯に関すること」は、他の項目でも関連する内容の回答があった。
(例:「トイレの利用に関すること」で「トイレの防犯」に関する回答あり)



ソレイユさがみとの共催で、「意見交換会」を実施いたしました。防災講座「女性の視点からの防災対策」(以下、防災講座)や広報誌で参加者を募集し、当日は防災講座でのアンケート結果などを踏まえて、女性の視点から相模原市の防災対策についてご意見をいただきました。

【概要】

日 時：平成30年11月30日(金) 午前10時～正午

会 場：ソレイユさがみ セミナールーム3

参加者： 討論者11名

(防災講座受講者3名、一般応募者1名、防災マイスター2名、
ソレイユさがみ職員1名、ソレイユさがみ企画事業委員会委員1名、
旭中学校生徒2名、危機管理課職員1名)

進行・運営スタッフ4名

(危機管理課職員2名、旭中学校生徒2名)

討論者はすべて女性

内容：

本日の趣旨説明、相模原市の防災に関する取組の概要説明

意見交換

テーマ1：避難所でのトイレの利用に関すること

テーマ2：避難所における生活スペースでのプライバシーの確保に関すること



当日の様子

【実施結果】

当日はアンケート調査を基に、様々な視点から意見をいただくことができました。進行していく中でテーマを超えて様々なご意見が出されたため、2つのテーマで終了しました。旭中学校の生徒については、当日にソレイユさがみの職場体験を行っていたため、会場準備を含めて参加していただきました。

意見交換会 結果

：心配なこと、不安なこと

：効果的だと思うこと

重要な意見：様々な課題を解決するためには、避難所運営委員会に女性も参画すべき

におい

特に夏場は他人の匂いが気になると思う。
鼻の下やマスクの内側にメントールを塗
ることが効果的、と聞いたことがある。

トイレ

もしトイレが避難所入口にあったら、入
りづらいか。レイアウトをしっかりと
考えないと。
明かりで中が透けないか心配。
トイレは水洗？何個ある？？
簡易トイレで出るゴミはどうするの？
障がいをお持ちの方の対応は大丈夫か。

防犯

普通にしていると悪意ある人なのかど
うかは、見た目では分からない。変質者
をどうやって見分けて、どう防ぐか。
性犯罪が心配。子どもも高齢者も被害者
になり得る。
貴重品の管理が心配。
子どもが外出した際に、避難所への帰り
が遅いとき、心配。
女性であることを過度に主張しない。ピ
ンクのものを着ない、髪は帽子にしま
う等を心がける。

個人（世帯）スペース・プライバシー
世帯ごとの生活スペースは、人数によ
って同じ？早い者勝ちだと女性や高齢
者が不利なのでは？ルール作りがで
きるか心配。
知らない男性が近くにいると心配。
でも、夫や息子たちとは離れたくない。
体調不良のときに居場所があるか心配。
生活スペース内でも、大家族等のた
めに、テントの設営を認めるべき。

音

知らない人の声や生活音がストレスにな
るのではないか。
避難所ではスリッパは禁止にして、ルーム
シューズを使うと良いらしい。

共同生活

下着の洗濯はどうやって行うか。
高齢者は早寝早起き。生活時間が違
うためにトラブルにならないか心配。
例えば近所の高齢者をどうやって避難
所に連れて行くか等、どう手を差し伸
べていいのか、対応が難しい。
知らない人と話すのが不安。
食事の配布の順番が、不平等・不公平
にならないか。

避難所運営全般

避難所に来てくれるボランティアが高
齢化していないか心配。
そもそも避難所が足りるのか？
ペットと避難するときはどのようにし
たらよいか。
避難所の運営は、地域だけではなく社
協ボランティア、防災マイスターと連
携できる仕組みが必要。



相模原市から

意見交換会では「女性の視点からの防災対策」という観点以外にも、様々な意見が出されました。

例えば、「避難所での外国人対応」については「外国の方は文化も風習も違い、それに伴って考え方も違うので、まずは相手を理解することが大切」というご意見をいただいた際には、「女性の視点からの防災対策」を考えるうえでも「相手（＝男性から女性、女性から男性）を理解すること」は大変重要であるというお話にも繋がるなど、多角的な視点で避難所運営を考えていただくことができました。

防災講座のアンケート結果も含め、今年度の取り組みでいただいたご意見は、避難所運営マニュアル改定に反映させていただきます。

各種取組にご参加いただいた皆様、ご協力いただき誠にありがとうございました。



意見交換会では、他にもたくさんのご意見をいただきましたが、本書のテーマが「女性の視点からの防災対策」であるため、一部のご意見を割愛し掲載させていただいております。ご参加いただいた皆様には大変申し訳ありませんが、本書掲載のご意見と同様、今後の取組に反映させていただきますのでご了承ください。